



【写真 2】収穫された貝類の加工作業



【写真 1】木造船を使用した採貝漁業

今回は、昭和30年頃の柳川の採貝漁業の写真を紹介します。

かつて柳川は有明海の水産物を使った缶詰製造業が盛んでした。その始まりは、旧柳川藩士が明治14（1881）年に創立した興産義社という会社です。同社はさまざまな缶詰を製造し、主に軍需によって経営を拡大させました。その後、柳川の缶詰製造業に発展をもたらしたのが、明治38年に創業した西海缶詰殖産株式会社です。赤貝やアゲマキ、マテガイ、タイラギ、アサリなどを使った缶詰を製造していた同社は、大正末期にアメリカ向けのアサリ水煮缶詰の商品化に成功します。この間、同業者の参入による粗製品の流通や乱売などの問題が発生。このため、福岡県や佐賀県（有明海）と千葉県（東京湾）の缶詰製造業者は、缶詰の品質保持などを目的とする組合を結成します。この組合の統制のもと、有明海産のアサリやハマグリ、缶詰は、北米を中心にオーストラリアや上海などへ輸出されていきました。しかしながら、第二次世界大戦の勃発により、缶詰の輸出は非常に困難となり、軍需向けへと転換を余儀なくされます。また、空缶は配給制となり、缶詰業者は福岡県水産缶詰合同会社として統一され、缶

昭和30年頃の採貝漁業

柳川古文書館 中川 晃一

缶詰製造は戦時体制下に置かれます。さらに漁業者が徴兵されたことにより、原材料となる貝の漁獲量が激減し、缶詰製造は休業状態となります。経営が再開されるのは、戦後しばらく経ってからです。

写真1は、昭和30年頃の採貝漁業を写したものです。この当時の船は10から13馬力ほどの木造船で、漁場への往復は潮の満ち引きを利用していました。写真2は、収穫された貝類の加工作業の様子です。収穫した貝類は重いため、まず人の手によって選別、加工してむき身にする作業を行います。その後、手押し車やリヤカーなどの人力によって缶詰製造工場などに運ばれていました。

その後、技術の進歩により、漁船の動力や積載能力は格段に向上します。運搬もクレーンを用いて、軽トラックで運ばれるようになると、一時的に水揚げ量が増加しました。しかし、乱獲などによって次第に水揚げ量は減少し、それにつれて、写真のような光景は見られなくなっていました。今回紹介した写真は、かつての缶詰製造を行う過程が、いかに多くの労力を必要としたかを今に伝える貴重なものです。

市史抄片別巻 vol.76

「思ひ出」写真館

市史編集委員会では、数年後に写真を中心とした本を刊行する予定です。現在さまざまな写真や絵はがきなどを集めています。隔月1日号に、同委員会で集めた写真を紹介します。

【問】市生涯学習課市史編さん係 ☎ 72・1275

ひとを結ぶ。
まちを結ぶ。

column
No.91

地域おこし協力隊

大好評だった「柳川まり」をテーマにした雛めぐり舟



コロナに負けない 柳川観光づくりに向けて

柳川に着任して2年が経過。この2年間は、50年生きてきた自分を信じて「自然体」で動いてきました。肩の力を抜き、これまで培ってきた広告のノウハウや観光、海運業界のスキルもときどき思い出しながら、仕事に向き合いました。そのかいあってか次第に人脈が広がり、本音を言い合える人や組織も増えてきました。ようやく柳川観光に関わる人間の一人になれた気がしています。

4月3日まで開催した「柳川雛祭り さげもんめぐり」の中のイベントの1つ「雛めぐり舟」。今年は「柳川まり」をテーマに、例年とは違う装いにしました。広報紙でまりの提供を呼びかけ、集まったまりをどんこ舟に飾り付けたところ、乗船したお客さんから大好評。舟上での食事や市内の商店街などで使えるクーポンを特典として付けたこともあり、昨年の2倍以上の人に利用してもらえました。地域や商店街、観光業、行政などが連携した「観光地域づくり」が実現したことに、柳川が持つ可能性の大きさを改めて感じました。



竹下 政志 (50歳)

【プロフィール】市観光課に所属。観光プラットフォーム構築を担当

多く意見を交換できた市民との交流ワークショップ



交流ワークショップで 市民の皆さんと意見交換

柳川に移住し1年が経ちました。この1年間は、手作りしたキッチンカーで、よかもん館や市内のイベントに数多く出店させてもらいました。また、むつごろうランドで泡マルシェを企画するなど、貴重な経験をたくさんすることができました。残念だったのが、コロナ禍で市民の皆さんと交流できる機会が少なかったことです。

そこで、地域おこし協力隊と市民の皆さんとが交流できるイベントを1月に交流館「なかしまワッセ!」で開催しました。まず、来場者に市にはどんな地域おこし協力隊がいるのかを紹介。その後、柳川のこれからを考えるワークショップを実施しました。ワークショップでは、皆さんから市内で開催したいイベントや課題と感ずることなどを聞くことができ、とても有意義な時間にすることができました。

これからも定期的に同様のイベントを開催し、皆さんと交流できたらと思っています。ぜひ、遊びにきてください。



平井 剛志 (31歳)

【プロフィール】市観光課に所属。柳川観光の未来を担うマルチプレイヤー